

第一次報告概要(平成18年11月28日)

1 地域医療を担う医師の養成及び確保について

- 入学者選抜における地域枠の在り方
 - ・地域枠の拡大と奨学金との連動
 - ・高等学校教育との連携(高校生に、地域社会への貢献の魅力を説明する機会の設定など)
- 学部教育
 - ・地域医療・保健への関心を高める取組(離島・へき地実習など)
 - ・大学の教育体制の整備(地域医療を専門とする教育組織の設置など)
- 卒後教育
 - ・地域の医療機関等との連携
 - ・研修医に対する教育指導体制の整備や処遇の改善
 - ・プライマリ・ケアのための研修体制の整備
 - ・医師の生涯にわたるキャリア形成の中核的な役割
 - ・へき地医療等の学習機会の提供、医師の復帰支援(定年退職した医師や退・休職した女性医師)
- 大学病院の役割
 - ・都道府県や地域医療機関等と連携した、地域における医療提供体制の確保
 - ・医師不足分野等の指導体制の充実、救命救急体制の整備
 - ・遠隔医療システムの活用

2 医学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂について

○ 地域保健・医療の記載の充実

新設項目

(2) 地域医療

一般目標: 地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身に付ける。

到達目標:

- 1) 地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる。
- 2) へき地および離島における地域医療の現状と課題について説明できる。
- 3) 医師の偏在(地域及び診療科)の現状について説明できる。
- 4) 地域における、保健(母子保健、老人保健、精神保健、学校保健)・医療・福祉・介護の分間の連携及び多職種間の連携の必要性について説明できる。
- 5) 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける。
- 6) 地域における、救急医療、災害医療、在宅ターミナルの体制を説明できる。
- 7) 災害救急医療におけるトリアージを説明できる。
- 8) 地域医療に積極的に参加・貢献する。